

2019年3月 育児期夫婦を対象とした出産前後の子育てや夫婦関係についての調査

本調査の目的

妊娠期および育児期はとりわけ出産を初めて経験する夫婦にとって、喜ばしいライフイベントである一方で、困難や不安の連続である。そのような産前産後の夫婦を対象とした両親学級などのワークショップは近年盛んに開催されている。本調査では事前に行なったインタビュー調査の結果を踏まえ、夫婦の気持ちや感情にアプローチするワークショップを実施するに際して、妊娠期および産後すぐの育児期における不安や困難さの実態を明らかにし、実際に出産を経験した夫婦の妊娠期・育児期における集会への参加の有無やその内容について探索的に明らかにすることを目的とする。加えて、育児期における子ども、配偶者、親との関係性およびメンタルヘルスについても調査する。

調査について

調査名：「ご家庭に関するアンケート」

調査方法：インターネットリサーチ（実施機関：株式会社マクロミル）

調査対象：現在3歳未満の子どもがいる既婚男女515名

実施時期：2019年3月20日（水）～2019年3月21日（木）

1. 回答者の基本属性

1.1 性別

性別		N	%
単一回答			
1	男性	112	21.7
2	女性	403	78.3
全体		515	100.0

1.2 年齢

年齢		N	%
単一回答			
1	12才未満	0	0.0
2	12才～19才	0	0.0
3	20才～24才	28	5.4
4	25才～29才	132	25.6
5	30才～34才	208	40.4
6	35才～39才	94	18.3
7	40才～44才	41	8.0
8	45才～49才	12	2.3
9	50才～54才	0	0.0
10	55才～59才	0	0.0
11	60才以上	0	0.0
全体		515	100.0

1.3 世帯収入

	世帯年収 単一回答	N	%
1	200万未満	13	2.5
2	200～400万未満	81	15.7
3	400～600万未満	126	24.5
4	600～800万未満	85	16.5
5	800～1000万未満	38	7.4
6	1000～1200万未満	20	3.9
7	1200～1500万未満	5	1.0
8	1500～2000万未満	2	0.4
9	2000万円以上	3	0.6
10	わからない	31	6.0
	無回答	111	21.6
	全体	515	100.0

1.4 個人収入

	個人年収 単一回答	N	%
1	200万未満	195	37.9
2	200～400万未満	74	14.4
3	400～600万未満	67	13.0
4	600～800万未満	30	5.8
5	800～1000万未満	5	1.0
6	1000～1200万未満	6	1.2
7	1200～1500万未満	0	0.0
8	1500～2000万未満	0	0.0
9	2000万円以上	1	0.2
10	わからない	22	4.3
	無回答	115	22.3
	全体	515	100.0

1.5 就業形態

職業 単一回答		N	%
1	公務員	22	4.3
2	経営者・役員	2	0.4
3	会社員(事務系)	58	11.3
4	会社員(技術系)	71	13.8
5	会社員(その他)	70	13.6
6	自営業	6	1.2
7	自由業	1	0.2
8	専業主婦(主夫)	241	46.8
9	パート・アルバイト	34	6.6
10	学生	0	0.0
11	その他	8	1.6
12	無職	2	0.4
全体		515	100.0

1.6 帰宅時間

	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		15時 以前	15時 台	16時 台	17時 台	18時 台	19時 台	20時 台	21時 台	22時 台	23時 台	24時 台	25時 台	26時 以降	未就労	自宅勤 務/不明
自分の帰宅時間	515	26	4	22	47	53	44	27	18	5	0	0	0	4	248	17
	100.0	5.0	0.8	4.3	9.1	10.3	8.5	5.2	3.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.8	48.2	3.3
配偶者の帰宅時間	515	18	3	15	38	65	108	75	53	35	19	11	10	2	50	13
	100.0	3.5	0.6	2.9	7.4	12.6	21.0	14.6	10.3	6.8	3.7	2.1	1.9	0.4	9.7	2.5

1.7 同居家族

あなたが現在同居しているご家族を全てお答えください。 ※事前アンケートでお答えのお子さまを除いてお答えください。 複数回答		N	%
1	配偶者	512	99.4
2	子ども(長子を除く)【 】人	371	72.0
3	父	22	4.3
4	母	22	4.3
5	義父	15	2.9
6	義母	12	2.3
7	兄【 】人	2	0.4
8	弟【 】人	2	0.4
9	姉【 】人	4	0.8
10	妹【 】人	2	0.4
11	孫【 】人	0	0.0
12	祖父	2	0.4
13	祖母	0	0.0
14	義理の祖父	2	0.4
15	義理の祖母	0	0.0
16	その他【 】	1	0.2
17	あてはまるものはない	0	0.0
全体		515	100.0

1.8 子どもの通園状況

あなたのお子さまの通園状況として当てはまるものを選んで回答してください。 ※複数通園している場合は主なものについてお答えください。			
単一回答		N	%
1	通園していない	350	68.0
2	認可保育園	98	19.0
3	認証保育園	9	1.7
4	認可外保育園	11	2.1
5	幼稚園	17	3.3
6	認定こども園	23	4.5
7	企業内保育室	3	0.6
8	院内保育室	3	0.6
9	その他【 】	1	0.2
全体		515	100.0

1.9 回答者自身の兄弟について

以下では、あなた自身についてお尋ねします。 単一回答	全体	1	2	3	4	5	6
		1	2	3	4	5	6以上
あなた自身の出生順序を選択肢から選んで回答してください。(長子であれば1)	515 100.0	292 56.7	166 32.2	45 8.7	11 2.1	1 0.2	0 0.0
あなた自身のきょうだいの数(あなたを含む人数)を選択肢から選んで回答してください。	515 100.0	48 9.3	269 52.2	154 29.9	33 6.4	7 1.4	4 0.8

1.10 親の健康について

以下では、あなたの親の体調についてお尋ねします。 単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		ない	ある(生まれつき)	ある(20年以上前から)	ある(約20年前から)	ある(約15年前から)	ある(約10年前から)	ある(約5年前から)	ある(2~3年前から)	ある(0~1年前から)
1 あなたの母親は、心や身体の持病がありますか。	515 100.0	423 82.1	6 1.2	21 4.1	8 1.6	10 1.9	16 3.1	15 2.9	11 2.1	5 1.0
2 あなたの父親は、心や身体の持病がありますか。	515 100.0	431 83.7	5 1.0	14 2.7	5 1.0	8 1.6	21 4.1	16 3.1	9 1.7	6 1.2

性別に関してデータ収集の段階で人数の制限をしなかったため、回答者の約8割が女性となった。また、回答者のうち約半数が現在就労していない専業主婦(夫)であった。また「1.7 同居家族について」の結果から、自分の父母、もしくは配偶者の父母と一緒に同居しているのは全体の5%以下であることが読み取れた。

2. 妊娠中に参加した父親学級、母親学級、両親学級について

2.1 参加した回数

	以下では、あなたご自身もしくは配偶者の妊娠中や出産後の体験についてお尋ねします。 ※事前アンケートでお答えいただいた同居している0～3歳のお子さま(長子)の妊娠中や出産後の事についてお答えください。(以降の質問についても同様です。)	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上
1	単一回答 妊娠中に父親学級、母親学級、両親学級などに参加したことが何回ありますか。	515 100.0	140 27.2	143 27.8	98 19.0	73 14.2	35 6.8	16 3.1	4 0.8	1 0.2	5 1.0

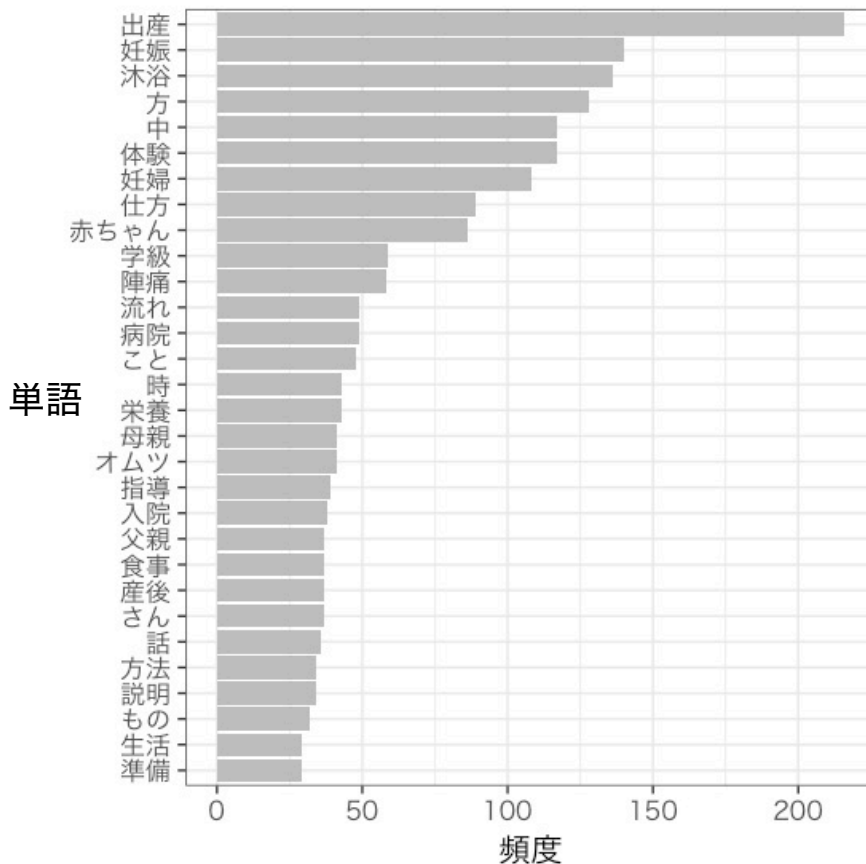
2.2 実施している団体

	以下では、あなたご自身もしくは配偶者の妊娠中や出産後に参加したことがある父親学級、母親学級、両親学級についてお尋ねします。(それぞれいくつでも)	全体	1	2	3	4	5	6	7	8
			病院	自治体	大学・研究所	ママ会・パパ会	NPO	民間企業	政府	その他
1	複数回答 妊娠中に参加したことがある父親学級、母親学級、両親学級の実施主	375 100.0	305 81.3	167 44.5	3 0.8	7 1.9	3 0.8	15 4.0	1 0.3	0 0.0

2.3 内容

「2.1 参加した回数」で参加回数が1回以上の協力者に対して、実際に妊娠中に参加した父親学級、母親学級、両親学級に参加した際の内容について自由記述で求めた。その結果375人の回答が得られた。以下では、自由記述の内容をテキストマイニングによって予備的な分析を行い、頻出している単語を抽出したものを示す。

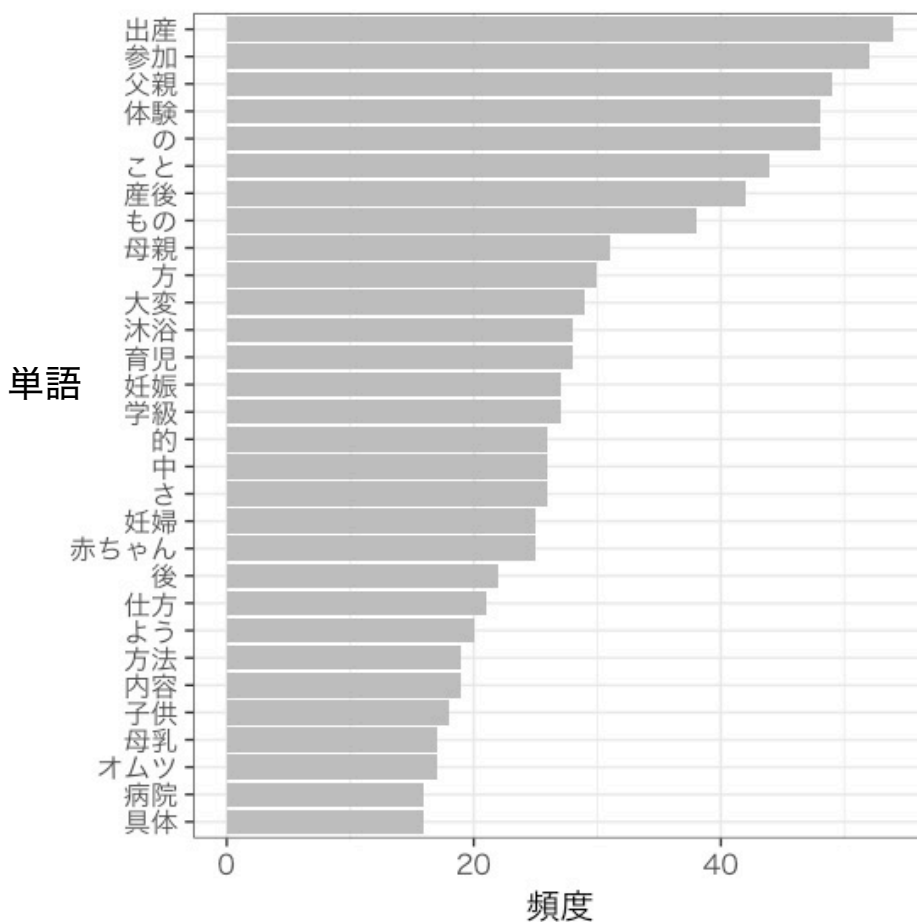
(注：自由記述データは、RStudio (version 1.2.1335)を用い、RMeCab関数によって分析が行われた。あくまでも予備的な分析であるため、より精緻化された分析が必要となる。以下の分析も同様である。)



「沐浴」や「オムツ」、「産後」などの単語が多く記述されていることから、産後の子どもの世話について扱う内容のものが多くわかる（例：「妊娠中の生活の仕方。陣痛の事。子供が産まれたあとの生活について」）。

また、陣痛から出産にかけての出産直前の時期についての内容や、入院時の流れなどについても多く扱われていることがわかった（例：「陣痛から入院、分娩の流れを確認/入院に必要なものリスト」）。さらには、妊娠中、出産後の生活の食事や栄養についても多く扱われていることもわかった。

2.4 妊娠中にあれば良いと思う父親学級、母親学級、両親学級の内容



実際に出産を経験した育児期の男女が「あれば良いと思う」内容として、特徴的であったのが「父親」に関するものである。例えば、「もっと、父親に向けた内容があるといいと思った。出産の大変さ、母親のメンタル面の変化、育児の大変さ、協力の必要性など、もっと知ってほしいと思う。産まれても実感がわからないようで、協力や理解があまり得られなかったの。」という記述に見られるように、父親を対象とした両親学級および父親学級が求められていることが読み取れた。

また「2.3 内容」に顕著に見られなかった「母乳」が多く記述されていることがわかった。具体的には、「母乳育児についての話がほとんどなかったの、もっと詳しく教えて欲しかった。」というものや、「必ずしも母乳で育てなくてもいいともっと言ってほしい。出産した病院が母乳推奨してたから仕方ないかもしれないけど、母乳がよく出ない自分は駄目な母親だとすごく思ってしまい、それ以外にも原因はあったけど、産後鬱になってしまった。」という記述にもあるように、母乳神話によって産後うつに陥ってしまうようなケースもあり、母乳による育児について正しい内容を提供する必要があると考えられる。

3. 育児期に参加した父親学級、母親学級、両親学級について

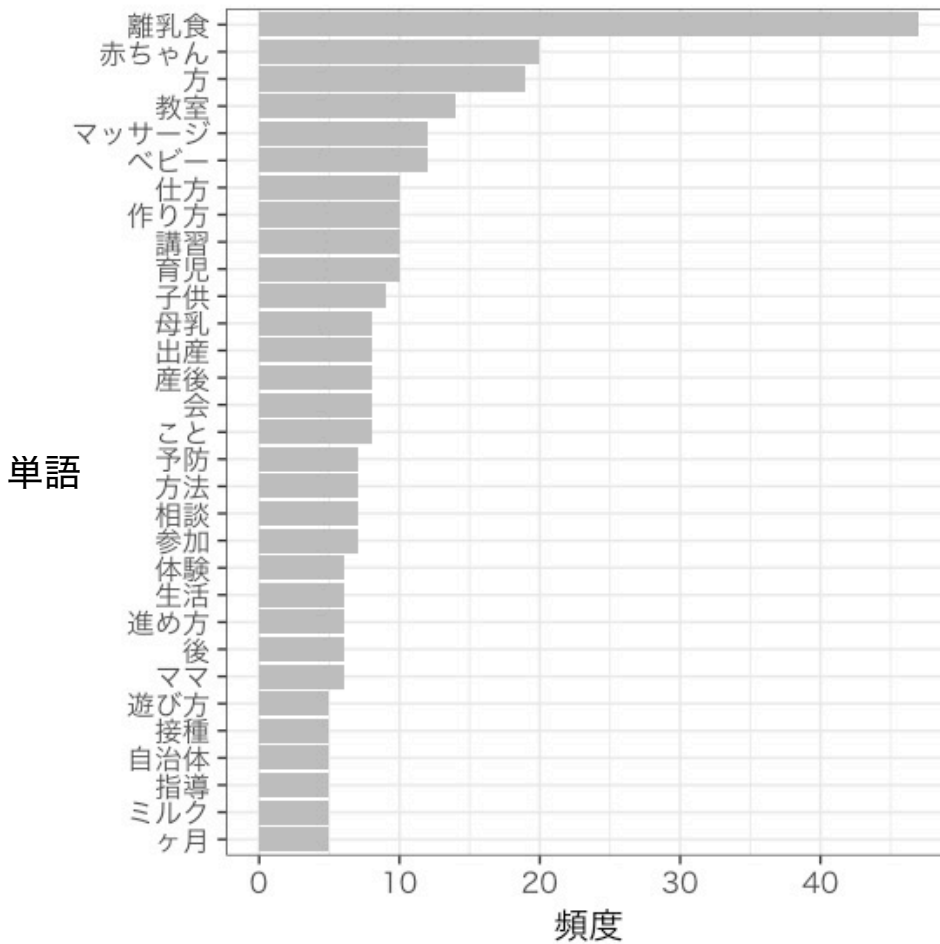
3.1 参加した回数

	以下では、あなたご自身もしくは配偶者の妊娠中や出産後の体験についてお尋ねします。 ※事前アンケートでお答えいただいた同居している0～3歳のお子さま(長子)の妊娠中や出産後の事についてお答えください。(以降の質問についても同様です。)	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上
単一回答											
2	出産後に父親学級、母親学級、両親学級などに参加したことが何回ありますか。	515 100.0	400 77.7	61 11.8	26 5.0	16 3.1	5 1.0	2 0.4	2 0.4	0 0.0	3 0.6

3.2 実施している団体

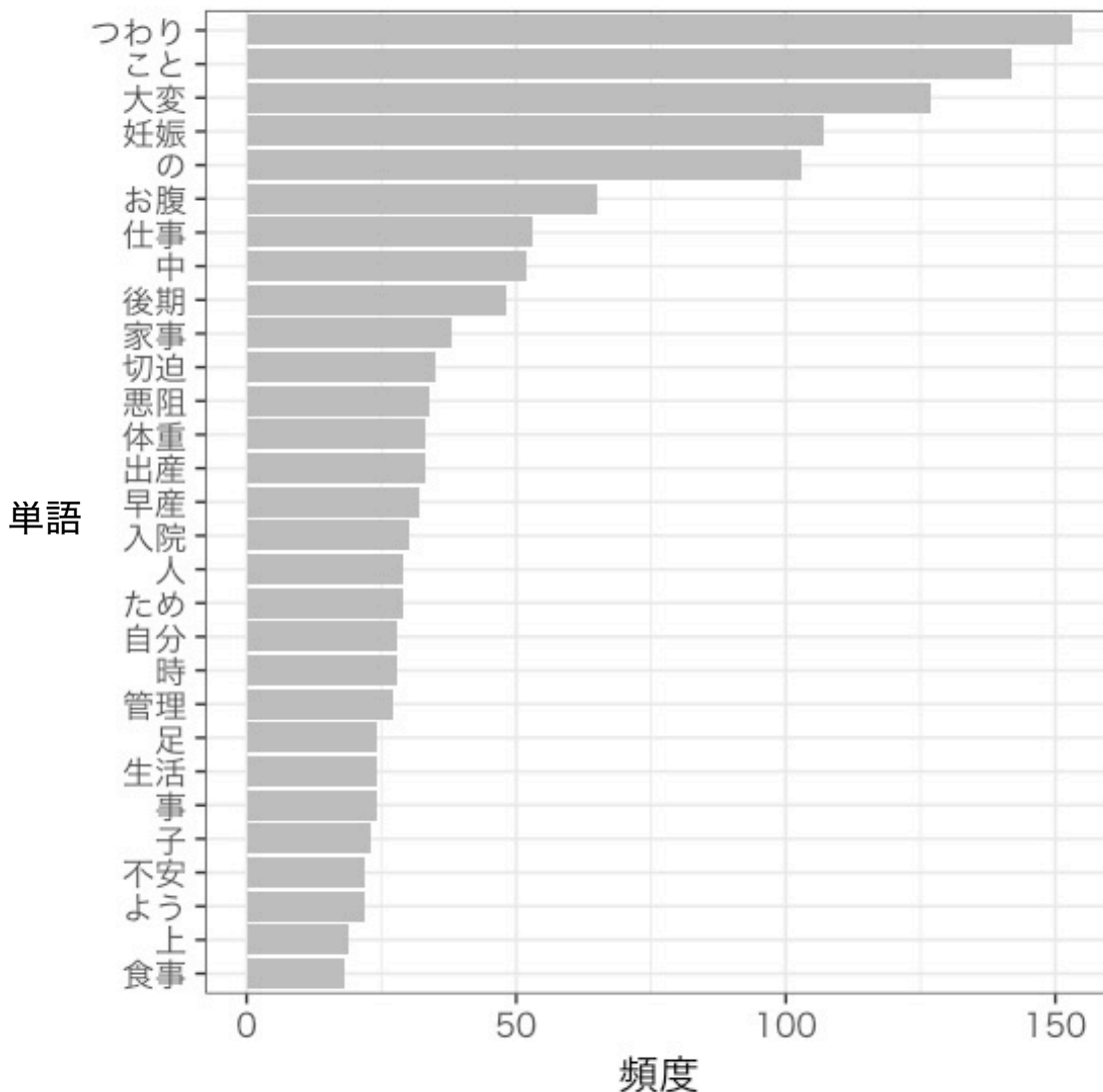
	以下では、あなたご自身もしくは配偶者の妊娠中や出産後に参加したことがある父親学級、母親学級、両親学級についてお尋ねします。(それぞれいくつでも)	全体	1	2	3	4	5	6	7	8
			病院	自治体	大学・研究所	ママ会・パパ会	NPO	民間企業	政府	その他
複数回答										
2	出産後に参加したことがある父親学級、母親学級、両親学級の実施主	115 100.0	49 42.6	80 69.6	2 1.7	6 5.2	1 0.9	2 1.7	1 0.9	0 0.0

3.3 内容



妊娠期の受講したワークショップの内容とは異なり、育児に関する内容が中心であった。とりわけ「離乳食」についてはその多くで扱っているということが明らかとなった。「マッサージ」はそのほとんどがベビーマッサージのことを指し、赤ちゃんとコミュニケーションを図る方法の1つとして講習されていることがわかった。出産後のワークショップとして「母乳」や「ミルク」について扱うものもあることが読み取れた。

4. 妊娠中の困難さや不安について

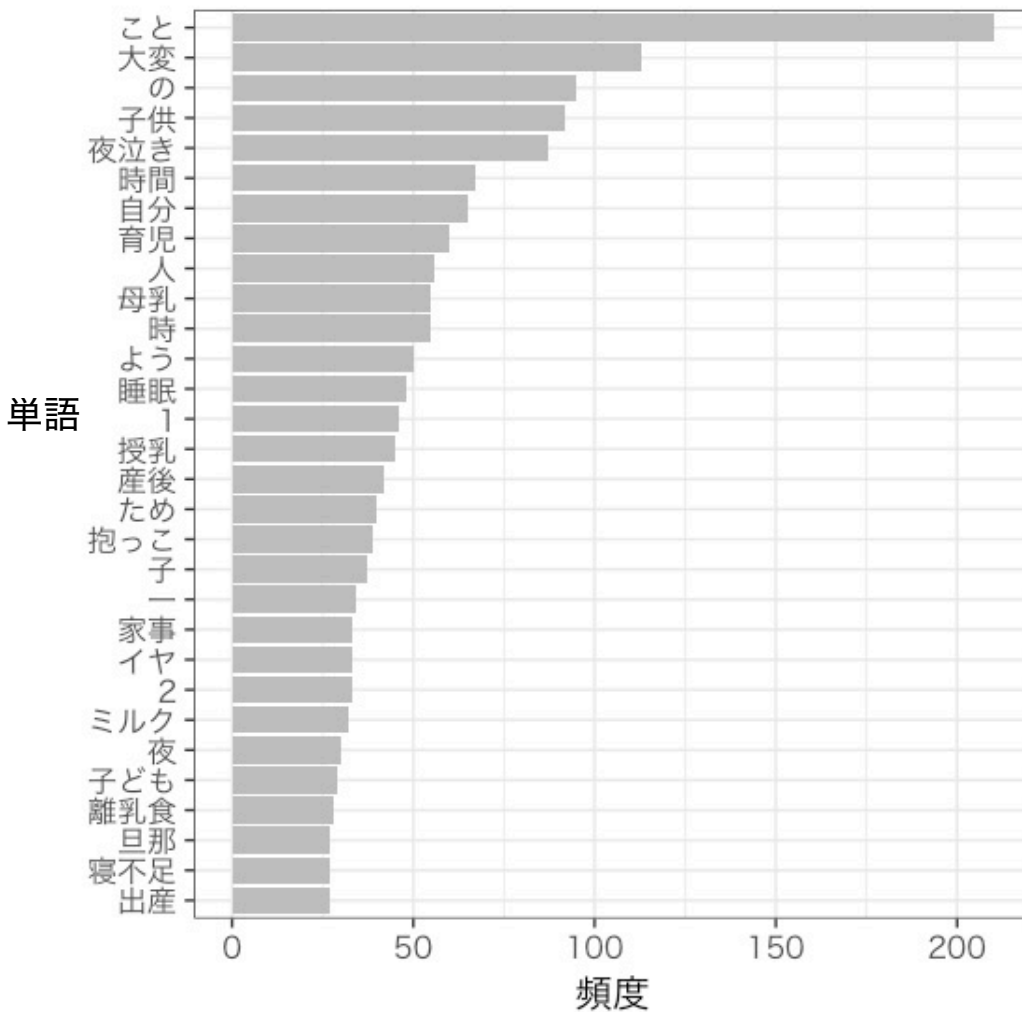


育児期の男女が自分あるいは配偶者の妊娠中の出来事を思い出してもらい回答してもらう形式であったが、もっとも大変だったことは「つわり」や「悪阻」であると読み取れる。(例：「つわり中は本当に地獄のように感じた。つわりが終わっても電車で座れないとお腹が張ったり足がむくんで心配は尽きなかった。/ 常に気持ち悪くて、悪阻が終わるまでまともな生活ができなくて仕事してたら仕事なんて行けなかったなと思いました)。また、「早産」などのトラブルやそれに伴う「入院」も大変だったこととして多く挙げられていることがわかった。

また、「家事」に関する困難さも多く挙げられ、特に妊娠後期の体が自由に動かさなくなる時期の負担が大きいことがわかった (例：「妊娠後期になると動悸や息切れが辛く家事があまり出来ない。歩くとすぐお腹が張るので運動不足だし、気分転換も出来ない」)。

初産でない女性にとっては、上の子の世話も負担になっていることがわかった (例：「上の子がいると思うように休めない、どうしても抱っこや重いものを持たなくてはならなくなってしまう」)。

5. 産後の子育てについての困難さや不安



出産後の大変なこととして最も多く挙げられたのは「夜泣き」についてであった（例：「想像以上に夜泣きが激しく大変でした」）。夜泣きによる睡眠不足はストレスやイライラにもつながるケースも多く挙げられていた（例：「妻も睡眠不足からイライラが溜まっていてちょっとしたことですぐ怒るようになってとても気を遣っている」）。また、「母乳」「授乳」「ミルク」といったような産後直後の子どもへの授乳に関する大変さも多く挙げられた。「母乳育児が大変。胸がカチカチになり痛くなって乳腺炎になって熱が出て子供に母乳をあげたくても体痛くであげられなかった。」という例が多く挙げられており、母乳育児の負担や不安は大きいものであることが明らかになった。

子どもがある程度の月齢である場合、その子どもの「イヤイヤ期」が親にとって負担になっていることも明らかになった（例：イヤイヤ期に入ると何もいうことを聞いてくれないので、その時の対応）。

6. 親、配偶者、子どもとの関係性についての心理的変数について

	<i>Mean</i>	<i>SD</i>	Min	Max
母親へのケアギビング不活性	2.56	1.08	1.00	6.90
母親へのケアギビング過活性	2.91	0.93	1.00	6.40
母親へのアタッチメント回避	3.03	1.37	1.00	7.00
母親へのアタッチメント不安	2.09	1.12	1.00	7.00
母親との関係性満足度	5.31	1.55	1.00	7.00
父親へのケアギビング不活性	2.89	1.19	1.00	7.00
父親へのケアギビング過活性	2.59	0.98	1.00	5.60
父親へのアタッチメント回避	3.86	1.29	1.00	7.00
父親へのアタッチメント不安	2.15	1.16	1.00	7.00
父親との関係性満足度	4.91	1.59	1.00	7.00
子どもへのケアギビング不活性	2.02	0.88	1.00	4.50
子どもへのケアギビング過活性	3.43	1.07	1.00	6.90
育児不安	4.16	0.94	1.50	6.60
メンタルヘルス	2.84	0.85	1.00	5.60
配偶者からのサポート知覚	4.59	1.41	1.00	7.00
配偶者との関係性満足度	4.68	1.8	1.00	7.00

ケアギビングの不活性傾向は相手のケアの必要性を察知できずケアを生起できない傾向であり、ケアギビングの過活性傾向は過剰で侵略的なケアを提供してしまう傾向である(Shaver, Mikulincer, & Shemesh-Iron, 2010; 大久保, 2018)。アタッチメントについては古村・村上・戸田 (2016)を用い測定した。アタッチメント回避は、不安や苦痛を感じ、助けを求めた方が良い場面でもそれを回避してしまう傾向を指す。一方、アタッチメント不安は、ケアを提供してもらえるかどうか不安がゆえに相手に対して、過剰に求めてしまう傾向を指す。メンタルヘルスの測定には5項目からなる自己報告式のMHI-5の日本語版(Yamazaki, Fukuhara, & Green, 2005)を用いた。得点は5項目の平均得点で得点が高いほどメンタルヘルスが良くないことを示す。配偶者サポートの測定には、情緒、手段、情報、評価の4種類のサポートに関する項目を含む項目を、宮武(2007)を参考に用意した。上記表では10項目の平均得点を算出し、得点が高いほど配偶者からのサポートを知覚していることを示す。育児不安については、田中(1997)の項目を修正して用いた。関係性の満足度については、それぞれについて単項目で測定したメンタルヘルス以外は全て7件法であった。

7. 親の介護について

	<i>Mean</i>	<i>SD</i>	Min	Max
母親の介護希望	4.9	1.6	1.00	7.00
母親への介護負担予期	4.45	1.55	1.00	7.00
母親への介護不安予期	4.48	1.54	1.00	7.00
父親の介護希望	4.3	1.66	1.00	7.00
父親への介護負担予期	4.59	1.56	1.00	7.00
父親への介護不安予期	4.61	1.6	1.00	7.00
義理の母親への介護不安予期	5.01	1.68	1.00	7.00
義理の母親の介護希望	3.59	1.68	1.00	7.00
義理の父親への介護不安予期	4.89	1.72	1.00	7.00
義理の父親の介護希望	3.21	1.65	1.00	7.00

親の介護に関する項目は全て独自に作成した項目であり、全て7件法で評定を求めた。介護希望は、将来介護が必要となったときに、介護をしたいと思うかどうか、介護負担は、将来介護をすることが負担かどうか、介護不安は将来介護をすることが不安かどうかということについて単項目で測定した。

8. まとめ

本調査は、主に、妊娠期および育児期における①不安や困難さ、②ワークショップなどへの参加の有無やその内容、③育児期における子ども、配偶者、親との関係性およびメンタルヘルスについて、その実態を明らかにすることを目的として、実施された。①、②に関しては、自由記述データの分析を行うことで検討した。とりわけ注視すべき結果として、実際に妊娠期に参加したワークショップではほとんど挙げられていない内容で、妊娠期に実施すべきという要望の多かった内容として、「母乳（育児）」に関する項目が多く挙げられていたことである。実際に産後、現在に至るまでに経験した困難なこととして多く挙げられている事項であり出産前の段階から理解しておきたいと思われている重要な内容であることが明らかとなった。また、やはり男性もそのようなワークショップに参加することが期待されていること、さらには男性が参加しやすい内容のものが求められていることも明らかになった。

また、特に親に対する将来的な介護に関して、自分の親よりも配偶者の親に対しては介護をしたくないという気持ちが高いことや、その不安も高いことが示された。育児期以降は、自分の子どもの世話だけでなく次第に親の世話にも関与しなければならなくなる。そのため、親、子、配偶者という3方向それぞれの関係性の連関に着目して、今後の研究を展開していく必要もあると考えられる。